

平成27年度第1回宮崎県社会教育委員会議 議事録

期日：平成27年7月31日（金）

時間：午後3時～5時

会場：宮崎県婦人会館

質疑 本県の社会教育推進に係る事業説明について

（事務局から事業説明）

議長 今、事業について説明がありましたが、社会教育委員会議の中でいろいろ議論して事業として組み立てられたものである。社会教育委員会議では、抽象論ではなく、即現場で使える、即活用できるものを提言しようとしてきた。その結果、「みやざき家庭教育サポートプログラム」は、生涯学習課で作成し、現在、各市町村で積極的に推進していただいている状況である。

議長 本年度から進めております「みやざき人財養成塾」について、長鶴委員が事業を推進する企画委員になっておられるので、その立場から説明をお願いしたい。

委員 事業は、宮崎を元気にしていこう、盛り上げようとする青年や大学生や高校生を対象にして、様々な分野から勉強をしながら人財を育成していこうとする塾で、この塾を推進する企画委員には、いろいろな経歴の方がおられ、企画を出し合っている。第1回目は、8月11日に開催され、河野知事や宮崎県出身の川越オーナーシェフ、元旭化成水永支社長の講話があり、たくさんの方々が集まる中で、事業がスタートした。

協議 本県の社会教育推進における現状と課題について

議長 ただ今から協議の時間に入りたいと思うが、本日は、本県の社会教育の推進における現状と課題について意見交換を行う。みなさま方は、それぞれの立場で社会教育委員として委嘱されているので、現在、考えていることについて、それぞれが後発言いただいて、今日この協議の中で出ました意見を第2回からの会議の中でテーマとして設けたいと考えている。

それでは、御意見をいただきたい。

委員 3歳児から人材育成を行っているが、ゆとり世代と言われる20代の方は、いつも誰かに寄り添っているばかりで自分から積極的に行動する人が少ないように感じる。どうしたら成功するのか目標を決めて考えることが大切だと思う。また、いじめを受けている子どもに対する声かけの仕方を悩んでいる親がいるのも現状である。

委員 事業説明の中で、公民館と図書館が取り上げられているのは、うれしいことである。これまで市中央公民館を活動の拠点とするジュニアリーダーの活動に関わっており、月2回、企画会議をしてきた。その中で、公民館のメインの事業が「貸し館」になっていることを懸念している。できれば、自主的に地域課題解決のための事業を企画からやってほしいと考える。また、公民館で「みやざき家庭教育サポートプログラム」を活用した講座を実施してほしい。図書館についても、情報提供をしていきたい。

委員 コミュニティー活動をしており、ゆとり世代と言われる方々と関わっているが、ゆとり世代は好きでなっているわけではない。にもかかわらず、何かと言うと、ゆとり世代はだめと言われることで、「世代間対立」を感じる。もっと世代を超えて話し合う場が必要だと考える。

委員 県PTA連合会は、日本PTA連合会や県高等学校PTA連合会と連携しながら、インターネットやスマホに関する約束事を家族間で決めることに取り組んでいる。親が決めて押しつけるのではなく、子どもたちが決めてルール化させるようにしている。親が決めると子どもたちが反発するので、このようなルールづくりは、子どもの健やかな成長の上で大切であると考えている。自治公民館については、各市郡で子ども会の活動がばらばらである。県立図書館は、地方からでもネットで調べて本を取り寄せることができるので大変助かっており、利用しやすくなった。要望として、週末に県が所有する駐車場をもう少し解放してほしいと考える。

委員 子ども・子育て支援法が施行され、幼稚園に保育園の機能を持たせることになっている。これは、子育て中の若い母親の働きやすい環境づくりを応援してほしいという法律である。一方、問題点として少子化があり、親が早い段階で仕事に復帰している現状がある。園では、親が若く、想定外のことが起こる。その親の子どもを見る先生がゆとり世代で、いろいろ調整役に奮闘している。

委員 私の地域では公民館長が1年で替わる。公民館長をしてくれる人がいないので、輪番制の地域が増えてきている。町の真ん中に自治組織、横の連携がとれるような組織体が全然なく都会化していると考えている。公民館の会長を集めて話をしても、町の真ん中にいる人たちがすぽっと抜ける。地域づくりに関して、公民館があるところは組織として動くことができるが、このコ

コミュニティーに関わりたくないという現状があるので、対策を考えないといけない。

小学校のプールを今年、開放しないと親が決めた。元気な年寄りがたくさんいるので、地域ぐるみでプールの解放ができないものかとPTA会長に話をしたところである。

委員 青年団は、地域活動をとおして、人材育成、地域貢献をしているが、青年団に入る人が少なくなってきたのが現状である。地元に戻ってくる人がいない。それ以上に地元に興味をもてない人が増えているようにも感じる。青年活動の一環として、子ども事業をやっているが、事業をしていく時にネックになっているのが保護者である。少年団活動や習い事が優先されてしまうため、子どもに関する事業の展開が難しい状況にある。

委員 宮崎県高等学校PTA連合会では、年2回、母親委員会という研修会を実施しており、子どもの健全育成に努めているところである。また、PTA主催で夢講座をしており、その講師は保護者やOBが務めている。その方々から夢と希望を与えられるような話を提供していただいている。大学は宮崎と考えている方も県外と考えている方もいるが、大学よりもこれからの社会について職業について考えていかないとなかなかつながらないと思う。民放が主催する「高校生フォーラム」に参加した学生は、宮崎出身の方の話を聴いて次は自分たちが頑張るんだという気持ちになっているようだ。

図書館協議会委員もしているが、図書館が変わってきているように感じている。今まで貸してくれる本屋というイメージだったが、ラーニング・コモンズなどが入ってきており、イメージが大きく変わったと感じる。

委員 子ども会は、これまで地域コミュニティーの中心的な役割を担ってきた。少子化や市町村合併保護者の方の価値観の多様化などにより、子ども会の減少が続いてきている。今までの悠長な考えでは存続が危ういということで、危険予知トレーニングの勉強会をやることにした。それをやってくれる市町村や子ども会には県の予算で補助金を出すようにした。市町村等から今後も続けてほしいという要望をいただいている。これを継続することによって、数年前の子ども会活動というものはこんなものだったというのが分かっていただけではないかと思う。

委員 婦人会館は、結成50周年になる。当時は、3万人の婦人会員がいたが、婦人会館が婦人会の拠点である。近年、女性の生き方が変わり、団体で学習しようという人が少なくなっている。今はどちらかという、自分たちがグループを作って、自由に好きなことをしようという風潮になってきているように感じる。やはり、その中で女性が集まって力を合わせて地域のことをやろうというのは、まだ存在感があるため、婦人会が社会教育関係団体として認められていると考えておりそれは私たちの誇りである。健康増進課の婦人の会、交通安全母の会、青

少年を守る母の会、子育て支援など、あらゆることを婦人会はやっている。時代のニーズに合うことを模索しているが、やはり会員が少なくなってきた、女性が働くということで地域の活動がしにくくなってきている。このような会に出席して他の団体の方の話が聞けることはありがたい。

委員 ゆとり教育が始まった根底には、学力向上だけではなくて、さまざまな生き方を考える時間をしっかり学校教育の中で設けるというのも一つの趣旨であった。経済がこのような状態になって、この世代の子どもたちはかわいそうに思う。ある意味、考え方によっては、ゆとり教育を受けた世代は、社会教育活動をしっかり伝えれば力になると思っている。親は、厳しい経済状況の中で、自分の生活が精一杯という時代になったのではないかと思う。社会教育活動に参加しない、あるいは、協力できないという根底が社会の中にある。

ぜひ社会教育活動に各専門高校が持っている専門力、施設や人などの資源などを活用し、触れることで、高校生の興味が高まるのではないかと思う。学校としても推進していきたい。

宮崎は当然、一次産業が衰退すると、農村もなくなるし農村文化もなくなる。地域コミュニティもなくなる。農業高校の使命はいかに担い手を作っていくかということである。

委員 私の地域には、キャリア教育センターがあり、地域ぐるみで企業を巻き込んで体験活動を推進している。最近では地域での体験活動が少なくなったように感じる。今は学校教育の中で地域の力を取り入れるキャリア教育を行っている。今回の人財養成塾は対象が高校生、大学生、青年であるが、若い頃からふるさとを愛する心を育む必要がある。身近な高校生の話を聞く機会が私の地域にはある。地域の人材をうまく使い小・中・高校をつなげるのが社会教育である。

議長 それぞれ委員さんから意見を出していただいた。今日は時間の関係で意見の出しっ放しで終わるが、次回からは、今日出されました意見の中から、特に組織の問題がそれぞれ共通したテーマであったと考える。私は活動から運動まで展開しないとそのことはなかなか定着しないと思っている。組織をどうするか、活動をどうするか、それを運動としてどう展開するかまでもっていかないと真の社会教育の振興はできないと思っている。

次回からテーマを決めて、そのテーマに沿ってそれぞれの立場から御意見をいただいて、目指すものに向かっていきたいと考える。

副議長 委員の方々の意見を聞きながら、地域コミュニティ力が低下していると感じた。委員から出されたように、公民館長が輪番制で1年おきで役割がきたからやるという班長みたいなものでは、地域づくりができない状況がある。

また、委員の子ども会の活動の在り方を検討しなければならないというこれまで地域を支える活発化していた組織がうまく社会状況の中で変化をとげて、少し形骸化、うまく機能しない状況が出てきているということを皆様の話から感じてきた。

教育長の話にあったように、社会のためにと意識が薄れて、どちらかというと、「個」というものが強くなってきたがゆえに、様々な懸念が生まれていると考えた。

宮崎を元気に活性化するに当たり、地域は基盤にないといけない部分である。今日は地域の現状を出し合う中で意見を共有できた。議長が言われたように、地域づくりをするには、組織をどうするか、運動をどうするか、私たちが何をやっていけばよいのかを次回から考えていくことになると感じたところである。

平成27年度 第1回宮崎県社会教育委員会議 議事録

